

Y P U ドリームアドベンチャープロジェクト 2008

報 告 書

山 口 県 立 大 学

目 次

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 スケジュール	2
YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 採択企画予算配分表	3
各プロジェクトの活動報告及び収支報告書	
(1)お弁当の日(大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供)	4
(2)心も体も健康になる『ヘルサー』	10
(3)宮野交流会 ～地域の方と料理教室～	17
(4)YPU「ゆめの森」づくり	25
(5)YPU WORLD BAZAR	30
(6)県大発自然体感プロジェクト及びエコアクション 21 学生委員会活動	36
(7)「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊	45
YPUドリームアドベンチャープロジェクト 選考内規	50
平成20年度 プロジェクト企画書	51
YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 活動成果報告会アンケート結果	52
YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008 選考委員会名簿	57

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

スケジュール

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 大学HPに募集案内チラシを掲示 | 5月1日(木) |
| 2 募集期間 | 5月7日(水)~5月28日(水) |
| 3 外部選考委員会委員の選出 | 6月13日(金) |
| 4 選考委員会(A部門:採択決定、B部門:1次選考) | 6月20日(金) |
| 5 選考委員会(B部門:採択決定) | 7月9日(木) |
| 6 選考結果発表 | 7月17日(金) |
| 7 各プロジェクトへ経費配分 | 7月17日(金) |
| 8 中間報告(大学HP) | 11月下旬 |
| 9 活動成果報告会 | 平成21年1月22日(木) |
| 10 実施報告書提出期限 | 1月29日(木) |
| 11 学生委員会へ結果報告 | 3月11日(水) |

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

採択企画予算配分表

(単位:円)

	プロジェクト名称	代表者名	予算配分表
A-1	お弁当の日 (大学生の食意識向上を目指した 交流の場の提供)	小野 舞佳 杉原 恵 生活科学部 栄養学科	100,000
A-2	心も体も健康になる『ヘルサー』	前田 光希 看護栄養学部 看護学科	30,000
A-5	宮野交流会～地域の方と料理教室～	吉田真知子 生活科学部 栄養学科	50,000
A-6	YPU「ゆめの森」づくり	本田ゆめみ 国際文化学部 国際文化学科	100,000
A-7	YPU WORLD BAZAR	村上 遥香 国際文化学部 国際文化学科	50,000
B-2	県大発自然体感プロジェクト及び エコアクション 21 学生委員会活動	原田 佳織 社会福祉学部 社会福祉学科	300,000
B-5	「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊	盆子原三晴 国際文化学部 国際文化学科	300,000
合 計			930,000

お弁当の日

—大学生の食意識向上を目指した交流の場—

参加者

代表者：小野舞佳(栄養4年)・杉原恵(栄養4)
メンバー：小山祐紀子(栄養4年)・佐藤愛(栄養4年)・久澄郁子(栄養4年)
川川悠貴(栄養3年)・瓦屋大志(栄養3年)

目的

栄養学科を持つ本学においても、昼食にインスタント食品や菓子パンなどを利用している学生が多く見受けられ、またダイエット目的や知識不足で食事をおろそかにする学生も多かった。このような現状を改善するために、大学生の食意識を向上させ、料理を作るきっかけ作りを目的とした交流の場を提供したいと思い始めた。

活動内容

①お弁当の日

毎回テーマを設定し、そのテーマに沿ったおかずを各自持ち寄って食べる会を月2回ペースで開催した。

	日時	テーマ	参加者数
第1回	5月21日(水)	私の好きなもの	24名
第2回	6月2日(月)	大切な人への一品	22名
第3回	6月18日(水)	梅雨(つゆ)	16名
第4回	7月7日(月)	七夕	12名
第5回	7月16日(水)	カラフル	18名
第6回	10月7日(火)	新	23名
第7回	11月11日(火)	11	26名
第8回	11月26日(水)	3色	15名

②食育ワークショップ「おべんとリンピック」に参加

西南女学院大学で開催された食育ワークショップ「おべんとリンピック」に、山口県立大学からはスタッフを含め25名が参加。

他大学との情報交換を行ったり、食や命について考えたり、また、本学で行う食育ワークショップのノウハウを身につけるなど充実した時間となった。

③食育ワークショップ「おいでませ！！お弁当の日」開催

12月20日(土)山口県立大学厚生棟食堂にて食育ワークショップ「おいでませ！！お弁当の日」を開催。

学外からの参加者も含め33名の参加者となり、お弁当の日や西日本新聞記者の佐藤弘さんの講演会、「食べることからもたらされるものを考えてみよう！」のテーマでのブレインストーミ

ングなどを通して食や命について考える会となった。

〈プログラム〉

10:00 受付開始

10:30 オリエンテーション

アイスブレイク

11:00 佐藤弘氏 講演

『食卓の向こう側に見えるもの』

12:00 お弁当紹介 テーマ:「まごころ～大切な人へ～」

12:30 みんなでお弁当

14:00 お弁当の日紹介

14:30 ワークショップ

・スライド上映(食べ物・親への感謝)

・ブレインストーミング「食べることからもたらされることを考えてみよう!」

16:00 ふりかえり

16:30 終了

プロジェクトを終えて

このプロジェクトを進めることでスタッフの私達自身、食の大切さ、料理を作ることの喜びを肌で感じる事ができた。

今回、計8回のお弁当の日、食育ワークショップ「おいでませ!!お弁当の日」の参加者は、栄養学科の学生が半数を占めたが、毎回のお弁当の日にたくさんの方が参加してくださり、本当に感謝していると同時に、私達が感じ、伝えなかったことを多くの人に感じ取っていただけたのではないと思う。今後は、他学科の参加者が増えるような支援をしていくことが必要であると感じた。

これからも新スタッフを中心にこの活動が続き、たくさんの人に広まることで、一人でも多くの人が、料理を楽しみと感じ実践し、食意識が向上していくことを願ってやまない。

YPU ドリームアドベンチャープロジェクト 2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名:お弁当の日(大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供)

配 分 額:100,000円

代表者:生活科学部 栄養学科 4年 小野舞佳・杉原恵

(単位:円)

区 分	支 出 額
広告費	12,973
掲示費	25,008
食育ワークショップ費	48,760
パンフレット費	12,692
合 計	99,433
配分額	100,000
残 金	567

山口県立大学版 お弁当の日

LEADER:

4年 小野 舞佳 ・ 杉原 恵

STAFF:

4年 小山 祐紀子・佐藤 愛・久澄 郁子
3年 相川 悠貴 ・ 瓦屋 大志

弁当の日とは

- はじまりは...
香川県の小学校で校長を務めていた竹下和男先生が、子供と家庭に「**くらしの時間**」を増やすことを目的に2001年に活動を始めた。
- どんな活動？
子供だけで弁当を作る。
- 何を学ぶか
食事をつくることの大変さ・楽しさ、家族への感謝、食べられることの喜び、家族とのふれあい

保護者は手伝わない
献立、食材の購入、盛りつけの
全てを子供たちの手で

山口県立大学版！！お弁当の日

<背景>

栄養学科を持つ本学においても、昼食にインスタント食品や菓子パンなどを利用している学生が多く見受けられ、またダイエット目的や知識不足で食事をおろそかにする学生も多かった。

<目的>

このような現状を改善するために、大学生の食意識を向上させ、料理を作るきっかけを目的とした交流の場を提供したいと思い始めた。

山口県立大学での はじまり・・・

- 08年4月 園田先生の発案により
山口県立大学版お弁当の日スタート！！
- 4月23日 第1回「お弁当の日を広める会」開催
スタッフ募集
- 5月21日 新スタッフ加入
第2回「私の好きなもの」開催
大成功に終わり月2回開催に転向
- YPUドリームアドベントチャープロジェクトに採択

山口県立大学方式

<方法>

- ・ テーマに沿った料理を持ち寄る方式
- ・ 月2回開催

<スタッフの活動内容>

- ・ テーマの決定
- ・ 毎回のポスター作成
- ・ 呼びかけや宣伝
- ・ 開催準備

など

本州の大学で
初の実施！

掲示した
ポスターの
SHOW介

掲示ポスター 例①

掲示ポスター 例②

掲示ポスター 例③

お弁当の日
 日時: 11月11日(火) 昼休
 場所: 売店横の和室
 テーマ: 11 (テーマは梅雨は新しい気持ち)
 1人1品テーマに沿った料理をもてなそう!!
 もし、テーマに沿っていないけども大歓迎です! 普段作らない料理ぜひ!! 量りたべー1つ分でOK!!
 楽しくがっつり食べましょう!! お気軽にどうぞ!!
 国研研究室 小野 利雄 (担当)

これまでに
 行ったお弁当の
HISTORY

5月21日(水) 私の好きなもの

天気もよく学内の芝生の上で開催しました!! 日頃食べたことのない様々な料理が並び、みんな大満足で2回目も大成功でした☆

参加者24名

6月2日(月) 大切な人へ一品

あいにくの雨により室内での開催でしたが参加者も増え楽しい時間を過ごしました。また、それぞれの持ってきた料理について紹介し合うなど学びの場となりました。

参加者22名

6月18日(水) 梅雨(つゆ)

梅雨の晴れ間でいいお天気の中、食堂前芝生にて開催!! 食堂前でも通行人も多かったためよい宣伝にもなりました☆
 また、ユニークな料理がたくさん見られ、季節を感じることができました。

ひじきの煮物 ~枝豆で初夏を演出~
 ささみのくすぶゆ ~梅雨風がたつわり~

参加者16名

7月7日(月) セタ

7月7日、セタの日ということで、短冊に願いを込めてセタ餅りも作りました。
 各自が工夫を凝らし、星の形に型抜きしたものやぞうめんを使ったものなどセタを連想させる料理が揃いました。

TAN ABA TA

参加者12名

7月16日(水) カラフル

トマトのコンポート ~夕暮しのめぐる~
 たまげなすの佃煮
 オクラと豚肉の梅風味巻き

立食パーティー形式での初の試み! 自由に動くことができ、大好評でした。料理はというと様々な夏野菜を使ったカラフルなものが揃い、目でも楽しめる会となりました☆

参加者18名

10月7日(火) 新

NEW!!

後期になり、新たな気持ちでスタート☆
 ということでテーマは新!!
 初参加の人が9人ととてもフレッシュな会となりました。

参加者23名

11月11日(火) 11

「11」という難しいテーマの中、知恵を絞った楽しい料理が揃いました！また学長先生が視察にこられ、励ましの言葉までいただきました。

学長先生

11

参加者26名

11月26日(水) 3色

人の多い食堂での開催！！3色のカラフルな料理が揃いました。お弁当の日の楽しさを多くの人に知ってもらえる機会となりました。

参加者15名

西南女学院大学
おべんとリンピックに参加

九州各地から大学生を中心に多くの人々が集結！！山口県立大学からはスタッフを含め25名が参加

食育ワークショップ 12月20日(土)
おいでませ！！お弁当の日

プログラム

- 10:00 受付開始
- 10:30 オリエンテーション・アイスブレイク
- 11:00 佐藤弘氏 講演 「食卓の向こう側に見えるもの」
- 12:00 お弁当紹介
- 12:30 みんなでお弁当
- 13:30 休憩
- 13:40 ミニワークショップ
- 13:55 お弁当の日紹介
- 14:20 ワークショップ
- 16:00 ふりかえり
- 16:30 閉会

アイスブレイク&自己紹介

佐藤弘氏 講演 「食卓の向こう側に見えるもの」

お弁当紹介&みんなでお弁当

ワークショップ「食・命・感謝」

ブレイクストーミング
「食べることからもたらされるもの」



おわり



参加者の感想

- 食や命について真剣に考えることができた。
- 食には多くのつながりがあり、私たちはたくさんの人に支えられて生きているということを実感した。
- 将来の子供や自分のために、今のうちに食を見直していきたいと思った。
- 食べ物、ご飯を作ってくれる人すべてに感謝していきたいと思う。

今後の予定

- 新たに2・3年生のスタッフが加入し、活動を継続していくことになった。
- 他学部にもより一層広めていきたい。

YPU ドリームアドベンチャープロジェクト2007
収支報告

プロジェクト名：お弁当の日
(大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供)
配分額：100000円
代表者：生活科学部 栄養学科 4年 小野舞佳・杉原恵

(単位：円)

区分	支出額
広告費	12,973
掲示費	25,008
食育ワークショップ費	48,760
パンフレット費	12,692
合計	99,433
配分額	100,000
残金	567

ご静聴
ありがとうございました。

『ヘルサー』

代表者：前田光希（看護2年）

構成員：酒向令恵（国際2年） 岡田麻里（社福2年） 河村幸代（看護2年）
長田知子（看護2年） 中村美沙子（看護2年） 平岡理沙（看護2年）
藤田早希（看護2年） 牧野祐美子（看護2年） 睦田正美（看護2年）
原田智子（栄養2年） 政所かよみ（栄養2年） 宮里文音（栄養2年）

目的

様々な学科の生徒が集まり、各々の学習してきたことを生かして、地域の高齢者の方々を対象に「健康」をテーマに交流会などを企画、実行することで企画する学生も、参加して下さる地域の方も身体・精神・社会的に健康になること。

目標

- ・地域の方が yucca をもっと使いやすくなる。
- ・学生と地域の方がもっと近くなる。
- ・若い人やお年寄りが相互に理解できるようになる。



活動内容

第1回（10/25）

地域を周って直接チラシを手渡ししたり、ポストへ入れたりして、参加者の募集を行った。

- ・血圧測定、体重測定
- ・工作（一輪挿し作り）
- ・風船バレーボール



第2回（11/9）

地域の方が集まる場所にチラシを掲示させてもらい、参加者の募集を行った。

宮野駅・宮野出張所・ハートホーム宮野・宮野クリニック（×）・老人クラブ

- ・血圧測定、体重測定、腹囲測定、BMI 算出
- ・県立大学構内にて「フィールドビンゴ大会」
- ・「食の健康」をテーマにお弁当で食事会



第3回（11/23）

参加者募集のチラシを回覧板に掲載、また2回目の活動終了時にチラシを参加者に配布した。

- ・血圧・体重・体脂肪測定・BMI 算出など
- ・健康や生活習慣病に関する言葉をキーワードにしたビンゴ
- ・肥満・高脂血症・高血圧症・糖尿病について学生による発表
- ・健康や生活習慣病・参加者が行っている健康法のディスカッション



成果

- ・複数の学科の生徒が集まり、活動することができた
- ・違う学科の学生間、また参加者の方と学生の健康に関わり方の違いを知ることができた
- ・「健康」をテーマにした交流会を企画・実行できた
- ・地域の高齢者の方々と交流し、意見交換ができた
- ・参加者の方は、皆さん元気で、イキイキされており、活動にも積極的に参加していただけた
- ・地域の方と一緒に活動をする楽しさを知った
- ・大学で学んでいることを、地域の人々に生かせるよう努力していきたいと思うようになった



今後の予定

「参加者の方の、もっとこのような企画を立ててね」という言葉をいただき、できればまた開催したいと思っている。

意見・感想

参加者の方は、皆さん元気で、イキイキされており、活動にも積極的に参加していただけた。しかし、積極的に参加していただける方は、募集や参加のお願いをすれば、快く参加していただけるが、一日の大半を家の中で過ごされている方へは、声かけだけでは不十分であることが分かった。

YPU ドリームアドベンチャープロジェクト2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名：心も体も健康になる『ヘルサー』

配 分 額：30,000円

代 表 者：看護栄養学部 看護学科 2年 前田 光希

(単位：円)

区 分	支 出 額
文房具費	3,503
印刷費	6,600
合 計	10,103
配 分 額	30,000
残 金	19,897

山口県立大学
YPUドリームアドベンチャープロジェクト

「ヘルサー」

構成員氏名

代表者

前田光希(看護2年)

構成員

酒向令恵(国際2年)

岡田麻里(社福2年)

河村幸代(看護2年)

長田知子(看護2年)

中村美沙子(看護2年)

平岡理沙(看護2年)

藤田早希(看護2年)

牧野祐美子(看護2年)

陸田正美(看護2年)

原田智子(栄養2年)

政所かよみ(栄養2年)

宮里文音(栄養2年)

「ヘルサー」の名前の由来

「HEALTHYER」

英語の「HEALTH(健康)」に「ER(～する人)」をつけ、健康な人という意味。

「減るさ」

心と身体から悪いものが「へるさー」という願いを込めて。

目的

様々な学科の生徒が集まり、
各々の学習してきたことを生かして、
地域の高齢者の方々を対象に
「健康」をテーマに交流会などを
企画、実行することで
企画する学生も、
参加して下さる地域の方も
身体・精神・社会的に健康になること。

目標

- ・ 地域の方がyuccaをもっと使いやすくなる。
- ・ 学生と地域の方の距離が近くなる。
- ・ 年齢の違う人同士が相互に理解しあえるようになる。

活動内容

第1回ヘルサー活動内容(10/25)

○参加者募集の方法

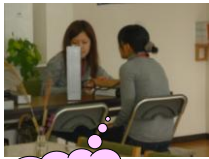
地域を回って直接チラシを手渡す。
チラシを郵便ポストへ入れる。

第1回担当:牧野、河村、平岡、岡田

- ・ 血圧測定、体重測定
- ・ 工作(一輪挿し作り)
- ・ 風船バレーボール

なかなか参加者は現れません・・・

血圧・体重・体脂肪測定の様子



見ないでー!!

とどとど...



一輪挿し作りの様子★



参加者の方も
楽しんでくださいました!

白熱! 風船バレーの様子★



第1回ヘルサーの成果

今回、参加者が一人だった。

参加される方々の予定なども考慮して、早めに日程等を知らせるなどの準備が必要だと分かった。

次回は地域のネットワークをうまく利用し、前回よりも早めに行動し始める必要があると分かった。

完成品



反省点

- 地域のネットワークを生かせなかった。
- 参加者集めをする時期が遅かった。
- 事前の準備不足、知識不足であった。

参加者募集の方法を見直し、
次回はもっとたくさんの地域の方と交流
することを目標とした。

第2回ヘルサー活動内容(11/9)

○参加者募集の方法

地域の方が集まる場所にチラシを掲示させてもらう。

(宮野駅・宮野出張所・ハートホーム宮野・
宮野クリニック(×)・老人クラブ)

第2回担当:長田、睦田、原田、政所、宮里

準備中



第2回ヘルサー活動内容(11/9)

- ・血圧測定、体重測定、腹囲測定、BMI算出
- ・県立大学構内にて
「フィールドビンゴ大会」
- ・「食の健康」をテーマにお弁当で食事会
参加者と学生とが食事を通して会話を楽しむ。

第2回ヘルサー開始★

BMIの算出



転倒防止
チェックリス



第2回ヘルサーの成果

- 前回の反省を生かして、参加者を増やすことができました。
- 活動を通してお互いの健康観を交換し合うことができました。
- 一人ひとりの食へのこだわりを知ることができました。
- 講義中に、参加者の方々とやりとりをする中で、情報を伝える責任、自分たちの知識不足を痛感した。

反省点

- 健康を意識したお弁当の工夫点などの情報のまとめがきちんとできず情報収集のみで終わってしまった。
- 効率よく時間を回すことができなかった。
- 牛乳の話をした際に、もっと詳しく説明できれば良かった。今度は、図や絵を使って分かりやすくできたらいいと思った。

2回目アンケート結果

- 不満だったところ
 - 自己紹介を忘れていましたね、今後はみなさんの名前も知らせてね
- 次回もまた来たいか？
 - ほとんどがまた来たいという回答であった。
- 参加者の声
 - とてもよかった
 - またお願いします
 - これからも続けて欲しい
 - 頑張る良いお嫁さんになって下さい
 - 弁当持参がよかった
 - いろいろなことがやってみたい

第3回ヘルサー活動内容(11/23)

- 参加者募集の方法
 - ・参加者募集のチラシを回覧板に掲載
 - ・2回目の活動終了時にプリントを配布した

第3回担当：中村、藤田、酒向

第3回ヘルサー活動内容(11/23)

テーマは「生活習慣病」

プログラム

- 開会式
- 血圧・体重・体脂肪測定・BMI算出など
- アイスブレイクでグループ分け
- 健康や生活習慣病に関する言葉をキーワードにしたビンゴ
- 肥満・高脂血症・高血圧症・糖尿病について学生による発表
- グループごとに健康や生活習慣病・参加者が行っている健康法をディスカッション
- 閉会式・表彰式

第3回目の様子



優勝おめでとうございます!!



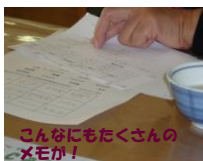
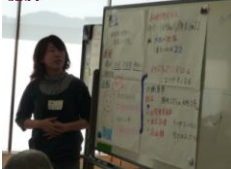
講義の様子



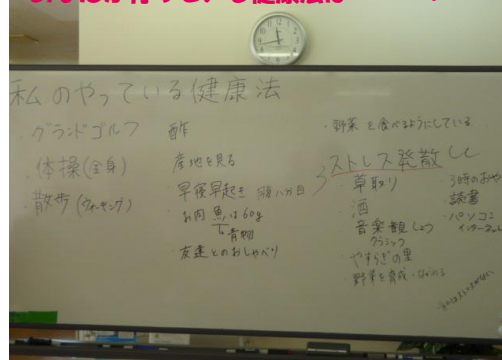
高血圧症について



肥満について



あなたが行っている健康法は・・・?



第3回ヘルサーの成果



(アンケート結果から)ヘルサー3回目の感想

- 今後も地域の交流のためにやってほしい
- 大変楽しく過ごさせていただきました
- 資料集めが大変でしたが、今後ともよろしく
- 今日は大変充実した時間でした。ありがとうございました
- 耳が遠いので大きな声で..
- 学生さんと逢える若い人の交流が老人にはよいと思います
- 何処でお会いしても挨拶ができます。ありがとうございます
- 今のままでよい、大変面白かった
- 座学がとても参考になりました、皆さんの優しさに感謝します

参加者からの声

- 「楽しかった」「次のテーマは何?」と言われて、また来年の活動が楽しみになった
- 次回のテーマは消化器系・腎機能についてというリクエストがあった
- 「もっと(ヘルサーを)開けばいいのに」との声があった
- 健康に関する情報を得る機会があまりないため、このような機会はとてもありがたいと話されていた

学生の反省点・感想

- 参加者がほんとうに熱心に講義を聞いてくださっていたので、情報を提供する側は十分に学習しておかなければならなかった
- 発表をする前に、学生間で共通に理解しておくことが不十分だった
- 全体の会の進行が、学生間で共通に把握されていないこともあったので、次回行う時には徹底しておきたい

- 高齢者の方は、得た情報を参考にして、日常生活に生かそうと努力されていることから健康への意識が高いことが分かった
- 高齢者の方々と、交流して、学生も元気をもらえた
- 学生が作成した広告を宮野地区の回覧版で回してもらったが、それを見てヘルサーに参加された方もいたので、うれしかった

- この活動が、とても意味のあるものとして認められているような気がしてうれしかった
- 前回のアンケート結果を活用できなかったため、前回と同じようなことが反省としてあがってきたこともあった
- 参加者の方の血圧を測る時に、自動の血圧計しか使えないことが悔しかった

今後ヘルサーでやってみたいこと

- 体操など
- ウォーキング
- グランドゴルフの交流
- 健康を保つ食事
- 食事の件、または健康面

アンケート結果から、健康に関する関心が高いということがわかった。

まとめ

- 複数の学科の生徒が集まり、活動することができた
- 違う学科の学生間、また参加者の方と学生の健康に関わり方の違いを知ることができた
- 「健康」をテーマにした交流会を企画・実行できた
- 地域の高齢者の方々と交流し、意見交換ができた
- 参加者の方は、皆さん元気で、イキイキされており、活動にも積極的に参加していただけた
- 地域の方と一緒に活動をする楽しさを知った
- 大学で学んでいることを、地域の人々に生かせるよう努力していきたい

宮野交流会～地域の方と料理教室～

代 表 者： 吉田真知子（栄養 3 年）

メンバ ー： 甲斐明日華（栄養 3 年）、河北早苗（栄養 3 年）

秋山麻奈美（栄養 2 年）、西山真波（栄養 2 年）

目的

地域の方と学生が交流できる場を、料理教室という形で企画し提供する。山口の料理と特産をテーマに、宮野地域の老人会（5 名）を招いて県立大学の学生（20 名）との料理作りや会食が新たな交流の場として楽しめるものにする。学内の調理実習室をお借りして、衛生管理を適切に実施する。11 月に 1 回実施。

活動内容

- 9 月に宮野地区の方に依頼、料理教室の打ち合わせ
 - 栄養学科の研究における宮野地区の調査を通じて交流のあった社会福祉協議会の方に、今回の料理教室の相談をして協力をお願いした。
 - 9 月に話し合いを設定し、その日まで企画書の内容を細かく設定し準備。
 - 9 月に料理教室の企画書をもって話し合いの場を設定し、宮野地区にお住まいで、料理の指導をしていただける方を紹介していただく。
 - 今回紹介していただいたのは、宮野地区老人会「明朗会」の会長・宇佐川章子さん。食生活改善推進委員*の経験があり、宇佐川さんに 4 名講師を紹介していただくこととなった。
 - * 食を通して地域の健康づくりのためのボランティア活動を行っている。市が主催する健康づくり事業や料理教室に関わっている。
- 10 月に事前準備
 - 9 月に社会福祉協議会の方と打ち合わせ後、10 月に明朗会の宇佐川さんとお会いし、企画の趣旨を説明して、依頼を承諾していただく。
 - 料理や全体の流れについておおまかに話し合い、今回は献立の作成や調理の指導をすべて明朗会のかたにお任せすることとした。
 - 献立に、宮野で食されているメニューや、地産地消を盛り込むことを提案し、昔から食べられている郷土料理や行事食を選んでいただいた。地元の食材を使用するにあたって、宮野の朝市で購入することとした。
- 11 月に参加学生募集
 - 料理教室参加を呼びかける告知ポスターを作成し掲示。
 - 参加者と講師の方に書いていただくアンケートを作成・準備。
 - 予定では 20 名の学生を募集していたが、時間帯を 13:30～16:00（金）と設定したため、思ったほど集まらなかった。
 - 最終的には 13 名の学生が参加。
- 11-12 月は直前準備
 - 宇佐川さんと最終打ち合わせをし、献立の細かい内容・作り方・材料・当日の流れを確認した。
 - 材料は、米や味噌やサツマイモなどは、宇佐川さんと明朗会の方が作ったものを、ご厚

意で持ち寄っていただいた。

- 材料は、野菜をなるべく朝市のものを使用し、他のものはスーパーで購入した。
- 参加費 300 円

●料理教室当日

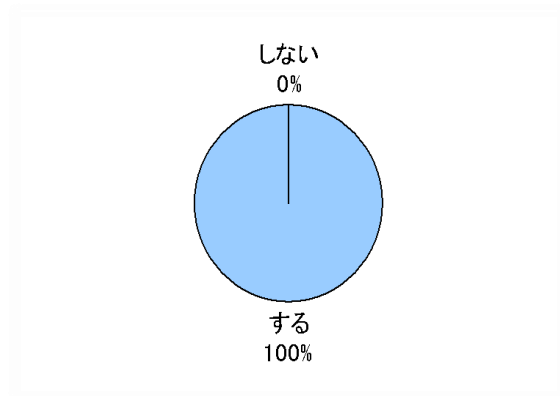
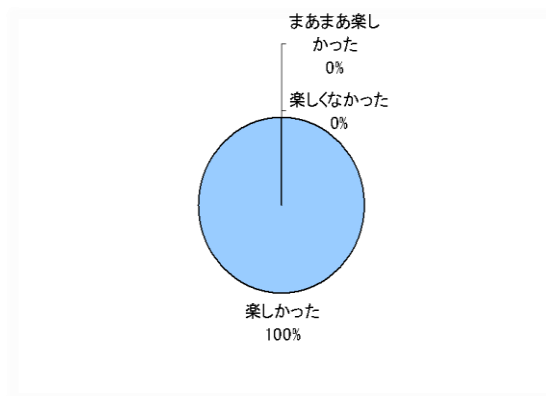
献立
祭り寿司（押し寿司）、いところ煮、けんちょう煮、三色なます ちしゃなます、ふろふき大根、大学芋

●料理教室での様子

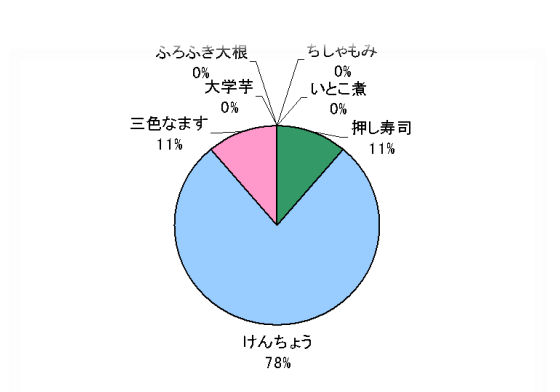
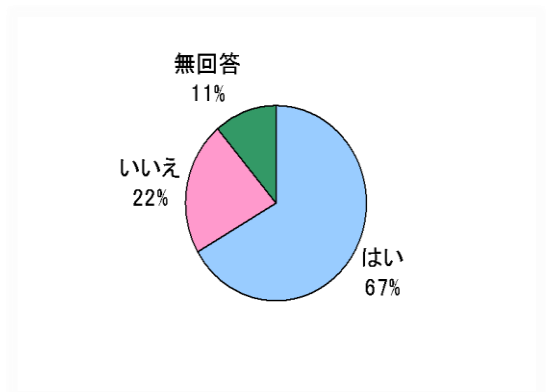
班ごとに講師の先生を囲んで手際よく調理が進んでいた。作り方を学生が尋ねたり、講師から昔の宮野の話聞くなどして終始和やかな雰囲気であった。詳細は別紙の写真を参考のこと。

成果
学生のアンケート結果

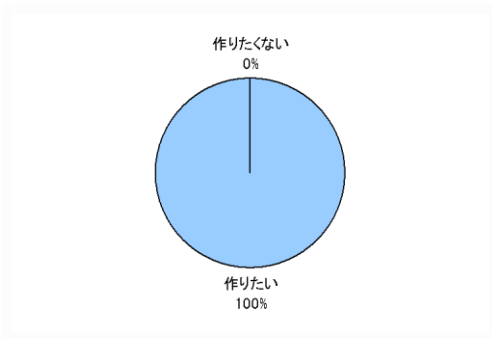
Q1. 宮野料理教室に参加して楽しかったですか？ Q2.自分で料理をしますか？



Q3.今回作った郷土料理を知っていましたか？ Q4.今回作って一番よかったメニューは何ですか？



Q5. 今後自分で作ってみたいと思いますか？



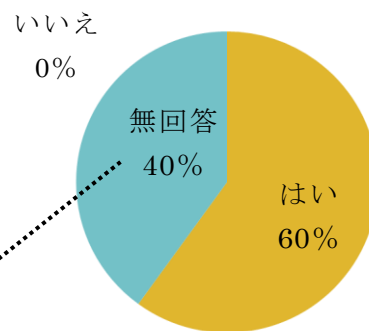
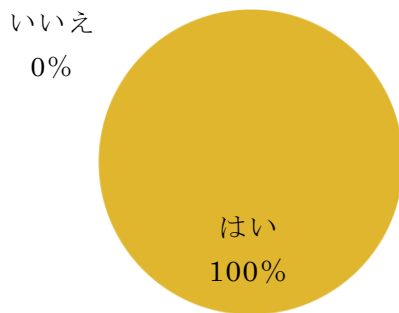
感想

優しい先生に丁寧に教えていただけて楽しかったです。
料理のプロの知恵を盗めて、いろいろな話を聞いていい経験になりました。
他学科・他学年の人とも交流ができてよかったです。
郷土料理について知っているようで知らないことがたくさんあったので、今回学べてよかったです。

講師の方のアンケート結果

Q1. 宮野料理教室に参加して楽しかったですか？

Q2. 今回の料理教室で宮野の郷土料理を学生に理解してもらえたと思いますか？



無回答の意見 ■ どうでしょうか、少しでもお役に立てたらと思います。

感想

若い人のパワーをもらえてよかったです。
またできましたら機会を持ちたいと思います。次にはもっと上手にできたらなと思います。
朗らかに楽しく料理をさせていただきました。ありがとうございました。
大変楽しく、年をとっていましたが、若返りました。

●材料費

(単位：円)

参加費 300 円×18 人	5.400
材料費	4.986
残金	414

※講師の皆様、御厚意で材料の持ち寄りをしていただいた。

●考察

- 参加者の呼びかけが3週間前と短い期間だったため、参加者が予定人数よりも少なかった。2か月前から声かけをすべきだった。
- アンケート結果から地域の方との交流・郷土料理の利点や良さを学生に伝えるという目標が達成できた。
- 地産地消を考え、宮野の直売所を利用して材料をそろえたが、県内産自給率(%)の算出などを忘れていた。
- 当日、設定していた終了時間に間に合わなかったためもっと時間設定を考慮すればよかった。

●感想

- 講師の方から郷土料理について説明していただき、さらに興味を持てるようになった。
- ヘルシーだけお腹いっぱいになり郷土料理のすばらしさを感じた。
- 宮野地区の講師の方や他の学科・学年の学生と交流できて楽しかった。
- 参加者が郷土料理を実際に作ることで、郷土料理の良さを自発的に気付いていた。こういった場を提供することで良さを発見できるきっかけになった事が喜ばしかった。
- 予算の枠組みや話し合いが大変だったが、終えたときの達成感が大きかった。

YPU ドリームアドベンチャープロジェクト 2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名 : 宮野交流会～地域の方と料理教室～

配 分 額 : 50,000 円

代 表 者 : 生活科学部 栄養学科 3年 吉田真知子

(単位：円)

区 分	支 出 額
印刷代	2,115
通信費	342
謝金	25,000
合 計	27,457
配分額	50,000
残 金	22,543

YPUドリームアドベンチャープロジェクト
2008

宮野交流会
～地域の方と料理教室～

栄養学科3年 吉田真知子 河北早苗 甲斐明日華
栄養学科2年 秋山麻奈美 西山真波

プロジェクトのねらい

- 地域の方と学生が交流できる場を、料理教室という形で企画し提供する。山口の料理と特産をテーマに、宮野地域の老人会（5名）を招いて県立大学の学生（20名）との料理作りや会食が新たな交流の場として楽しめるものにする。学内の調理実習室をお借りして、衛生管理を適切に実施する。11月に1回実施。

プロジェクトの進行計画

- 7月 宮野地区の方に依頼
料理教室の打ち合わせ
- 9月 事前準備
- 10月 料理教室参加の学生募集
- 11月 料理教室開催
- 12月 アンケート集計・報告書作成
- 1月 結果報告会

9月 宮野地区の方に依頼
料理教室の打ち合わせ

- 栄養学科の研究における宮野地区の調査を通じて交流のあった社会福祉協議会の方に、今回の料理教室の相談をして協力をお願いした。
- 9月に話し合いを設定し、その日までに企画書の内容を細かく設定し準備。
- 9月に料理教室の企画書をもって話し合いの場を設定し、宮野地区にお住まいで、料理の指導をしていただける方を紹介していただく。
- 今回紹介していただいたのは、宮野地区老人会「明朗会」の会長・宇佐川章子さん。食生活改善推進委員の経験があり、宇佐川さんに4名講師を紹介していただくこととなった。

10月 事前準備

- 9月に社会福祉協議会の方と打ち合わせ後、10月に明朗会の宇佐川さんとお会いし、企画の趣旨を説明して、依頼を承諾していただく。
- 料理や全体の流れについておおまかに話し合い、今回は献立の作成や調理の指導をすべて明朗会のかたにお任せすることとした。
- 献立に、宮野で食されているメニューや、地産地消を盛り込むことを提案し、昔から食べられている郷土料理や行事食を選んでいただいた。地元の食材を使用するにあたって、宮野の朝市で購入することとした。

11月 参加学生募集

- 料理教室参加を呼びかける告知ポスターを作成し掲示。
- 参加者と講師の方に書いていただくアンケートを作成・準備。
- 予定では20名の学生を募集していたが、時間帯を13:30~16:00（金）と設定したため、思ったほど集まらなかった。
- 最終的には13名の学生が参加。

11-12月 直前準備

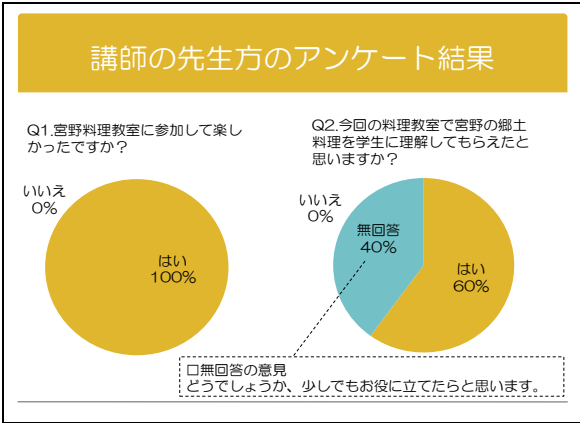
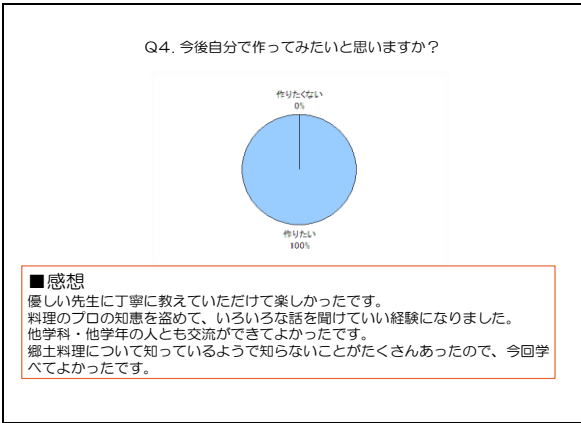
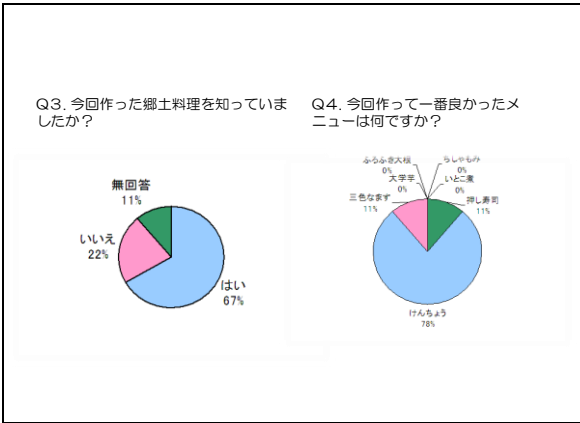
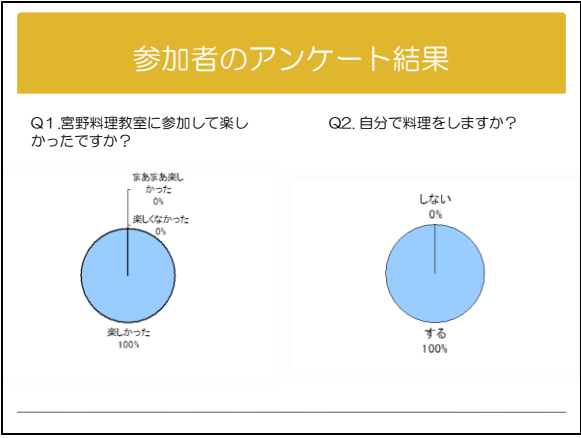
- 宇佐川さんと最終打ち合わせをし、献立の細かい内容・作り方・材料・当日の流れを確認した。
- 材料は、米や味噌やサツマイモなどは、宇佐川さんと明朗会の方が作ったものを、ご厚意で持ち寄っていただいた。
- 材料は、野菜をなるべく朝市のもを使用し、他のものはスーパーで購入した。
- 参加費300円

献立

祭り寿司（押し寿司）
いとこ煮
けんちょう煮
三色なます
ちしゃなます
ふろふき大根
大学イモ

12月5日（金）料理教室当日





- 感想
- 若い人のパワーをもらえてよかったです。
 - まだできましたら機会を持ちたいと思います。次にはもっと上手にできたらなと思います。
 - 朗らかに楽しく料理をさせていただきました。ありがとうございました。
 - 大変楽しく、年をとっていましたが、若返りました。

材料費

〈単位:円〉

参加費300円×18人	5,400
材料費	4,986
残金	414

※講師の皆様、御厚意で、材料の持ち寄りをしていただいた。

- ### 考察
- 参加者の呼びかけが3週間前と短い期間だったため、参加者が予定人数よりも少なかった。2か月前から声かけをすべきだった。
 - アンケート結果から地域の方との交流・郷土料理の利点や良さを学生に伝えるという目標が達成できた。
 - 地産地消を考え、宮野の直売所を利用して材料をそろえたが、県内産自給率(%)の算出などを忘れていた。
 - 当日、設定していた終了時間に間に合わなかったためもっと時間設定を考慮すればよかった。

感想

- 講師の方から郷土料理について説明していただき、さらに興味を持てるようになった。
- ヘルシーだけとお腹いっぱいになり郷土料理のすばらしさを感じた。
- 宮野地区の講師の方や他の学科・学年の学生と交流できて楽しかった。
- 参加者が郷土料理を実際に作ることで、郷土料理の良さを自発的に気付いていた。こういった場を提供することで良さを発見できる発端になった事が喜ばしかった。
- 予算の枠組みや話し合いが大変だったが、終えたときの達成感が大きかった。

YPU「ゆめの森」づくり

大学の森を地域に開けた自然公園にしよう！

ねらい

県立大学の学生が、地域の方の技術と力を借りながら、管理の手の届きにくい大学の森を自然公園へと整備していく。その中で、学生と地域の交流が営まれるよう、学生が学習の場として活用できるように、地域の方と協力しながら、しいたけの栽培を行う。

活動内容

1. 森の整備（10月26日実施）

〈私たちは森を維持する方法を一つも知らないので、地域の方指導の実地活動から、森林整備技術を体験しました。〉

参加者： 学生 5人 地域の方 4人

- ・実地の体験を通して、地域の方に、森林伐採の技術や安全管理について教えていただきました。
- ・きのこ栽培用の原木の準備を行いました。

2. きのこの栽培（1月25日午前）

〈森が、地域と大学の楽しく元気な交流の場となり、ずっと続いていくことを願い、おいしいきのこの菌をまいていくことにしました。〉

参加者：学生5人 留学生1人 教員2人（指導の）地域の方5人
一般参加者9人（大人4人 小人5人）

- ・しいたけ、なめこの菌打ち、原木の運搬を行いました。
- ・農協や地域の方に道具から指導まであらゆる面で協力していただきました。
- ・子どもたちが非常に興味を持ち、もくもくと作業に参加してくれました。
- ・雪が多く、開催を迷いましたが、1時間遅く始めて、無事作業を終わらせることが出来ました。
- ・今後の活動について相談する中で、地域の方、一般参加のご家族も、是非参加し続けたいと言っていただけで、有意義な会となりました。

3. 看板作り

「森の場所がわかりにくい」という意見があったので、入り口に看板を立てます。

これまでの活動から今後へ

- ☆ 地域の大きな協力があって、活動を進めることができている。
- ☆ 今後、どのように森の整備を続けていくのか、考えなければならない。
- ☆ 県立大学には、おいしいきのこを育てることも出来る自然豊かな森という「財産」があることを、たくさんの人に知ってもらいたい。
- ☆ 森の安全規約と看板・地図を作る。

- ・農協の方に今後の作業工程を習いに行く。

- ・原木を山の中に運ぶ。
- ・ミーティングを開き、今後の活動について相談していく。
- ・メンバーを募集する。
- ・今後の活動資金について考える。

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名:YPU「ゆめの森づくり」

配 分 額:100,000円

代 表 者:国際文化学部 国際文化学科 4年 本田ゆめみ

(単位:円)

区 分	支 出 額
森林整備学生指導費	41,920
きのこ栽培 椎茸菌他	14,963
原木	35,000
看板作成 看板用板	2,000
防腐剤(木材用)	2,762
合 計	96,645
配分額	100,000
残 金	3,355

学生ドリームアドベンチャー
YPU「ゆめの森」づくり
A-6
—大学の森を地域に開かれた自然公園にしよう—

大学の森に行ったことがありますか??

看護棟の裏には自然豊かな森があります。
これは県立大学の森です。

マロニエの森の会の方が整備に取り掛かり、陽が差し込むように程よく木を切り倒し、非常に明るい森にしてくださいました。

森のメンバー

社会福祉学部 (2年)	末武 晋	
	武田あかね	
	田中亜紀	(会計)
	松尾辰哉	(副代表)
生活科学部 (3年)	坂本香奈子	
国際文化学部 (2年)	青柳満人	
	田中隆真	
(4年)	本田ゆめみ	(代表)

誰も知らなかった県大の財産

- ・ こんな場所があったのか
- ・ 豊かな自然が身近
- ・ 誰も知らないままでもったいない
- ・ このまま森が残されるべきだ
- ・ 何か面白いことが出来そうなのに・・・

もちろん豊かな自然ですが、森は人の手が入り続けることで守られていきます。時には不要な木を倒すことが、森の活力になるんです。

非常にいい場所ですからね、学生の皆さんが何かに使った面白いと思うんですけどね。そしたら僕らもよろこんで協力しますよ。

大学の森を地域に開かれた自然公園にしよう！

- ・ 県立大学の学生が、地域の方の技術と力を借りながら、大学の森の整備を行う。
- ・ 学生と地域の交流が営まれるよう、学生が学習の場として活用できるよう、地域の方と協力しながら、しいたけの栽培を行う。

➡ 整備の手が届きにくい大学の森が自然公園として、地域に開放される場として整えられていくとともに、今後の地域の方との森での継続的な交流、活動のきっかけとなる。

活動内容

1. 森の整備
2. きこの栽培
3. 看板作り

1. 森の整備
—森林整備の基礎を実地で学ぶ—

平成20年10月26日
参加学生: 5人
指導: 地域の方4人
内容: 地域の方に指導していただき、森林整備技術を体験する。また、体験しながら原木の運搬等、きこの栽培の準備をする。

チェーンソーを用いて木を切るなど、危険な作業を含むため、**山仕事における安全管理**から指導していただきました。





学生

- 普段山の自然に接することがないので知識はなかったが、一日で木を倒す方法などいろいろ学べた。
- 木の切り倒し方にも様々な方法があり、効果的な方法を使う。
- ぼんやりしていると木が倒れてくるのに遅く気づいて危険になっていたので、常に気を張っておかなければならない。
- 木は偉大だった。運ぶのが楽しい。力を合わせることは重要だと思った。
- きびきび動くのは難しく、大人に頼ってしまったが、作業は楽しかった。
- 山で働く人たちから見た山での生活観が学べた。たくさん話が聞けた。
- 友人を誘うことが出来た。このように参加者が増えてほしい。
- 貴重な体験が出来た。また参加したい。
- たべものがおいしかった。

地域の方

- 安全にできた。
- 雨も降り、作業としてはゆっくりだった。
- チェルフォールを使った作業を見せることができてよかった。
- この活動が長く続くといいと思う。
- 菌打ち多くの学生が集まるいいですね。

2. きこの栽培

平成21年1月25日(日) 午前9時～
内容: しいたけ、なめこ菌を原木に打ち込む。

しいたけ農協の方、マロニエの森の会の方が大学・学生への協力の気持ちで、ボランティアで指導に来ていただきます。
また、地域の子ども、ご家族がきのこの菌の打ちつけを体験してみたいということで、交流しながら作業を行います。

☆収穫☆

しいたけは二夏後の、なめこは来年の秋収穫できます!!
学生と地域の方でおいしく食べられるような金が出来たらいいなあと思っています。

みなさん、よかったら参加してください☆

ふた夏たったらおいしいシイタケがはえてくるはず...です。

これは天然ものです。



会計報告 申請金額: ¥100,000

- ① 森林整備学生指導料
¥10,480 = ¥41,920
- ② きこの菌
しいたけ菌 2,800箱
なめこ菌 ¥2,800箱 + 税 = ¥14,960
- ③ きこの栽培用原木
¥35,000本 = ¥35,000
- ④ 看板用板
¥1,000枚 = ¥2,000
- ⑤ 防腐剤(木材用)
¥1,300缶 = ¥2,762

合計 ¥96,642

反省・感想と今後に向けて

なんとかいい手段がないかと探ってどうにか立ち上げた企画

→メンバーの都合がなかなかそろわず、積極的に集合を呼びかけることもなかなか出来なかったのが、活動がスムーズではなかった。しかし、お互いの都合を考慮しあい、活動自体はすすめることが出来ている。

今後の収穫の計画や、他の活動のために、メンバーの増加や費用のため、様々な面で良い方法がないかを考えなければならない。

→まずは、自分のまわりから声をかけていく。

こういう山仕事、作業の場合

協力してくださる地域の方に、せめてヒールでも差し入れをしたり、休息を、し合いを進めたりできたならよかった

菌打ちの際には、ボランティアで協定する方にも、差し入れが出来ないのと思う。

地域の大きな協力があって、活動することができています。

- 学生の安全な活動
- 作業が楽しくなるような工夫
- 作業以外の様々なお話
 - ・・・宮野のこと、大学のこと、生活のこと
- 真剣な意見交換

ありがとうございます。

森における安全の決まりを考えておく必要がある。
菌打ち・看板作りを終わらせる。

まずは・・・

多くの人に、森を知ってもらいたい。

サンデー山口で取り上げられました。

その記事を見て連絡を下さった方が、たびたび森に遊びに来てくださっています。



みなさんぜひ足を運んでみてください。

ありがとうございました。

YPU WORLD BAZAR

尾崎真友子 倉本真夢美 玉川佑香 藤井里江 村上遥香 吉武浩子（国際1年）

目的

子供たちに異文化や国際問題に興味を持ってもらうきっかけを作る。

活動内容

スパイスカレーを作り手で食べることで異文化理解をうながす。また、参加型ワークショップで体を動かしながら世界の現状を知る。カレーの施策とワークショップの段取りを決め、12月2日に大歳小学校の協力のもと、5年1組の児童を対象に授業を行った。

カレー試作



スパイスの種類や量の調節をし、子供の口に合うように3度の試作を行った。

本番:カレー作り



6班編成したグループに私たちが手伝いとして1人ずつ順番に調理した。スパイスの分量は同じにしていたのだが、火加減等によって各班とも色や味の異なるカレーが完成した。

（食事の時間を利用して、日本のカレーとの違いや、手を使った食べ方などの知識を伝えた。また、スパイスや米の種類と特徴、宗教上の食事制限についても例をあげて説明した。）

カレー作りにおいては、ほぼすべての児童がスパイスカレーを食べたことがなく、手を使って食べるのも初めてだった。

参加型ワークショップ

このゲームでは、世界を37人の教室に縮めたという設定で、一人ひとりに役割カードを配り、その役割になりきってもらってゲームを進める。その役割カードには性別や出身国の名前

など、個人の設定が書いてある。

内容

- * 世界の人口比・男女比
- * 世界の言語
- * 大陸別人口分布
- * 識字率
- * 富の分布



↑ 大陸別人口分布



↑ 富の分布

成果

今回、事前と事後に分けてアンケートをとった結果、次のような意識の変化が見られた。

事前・事後アンケート

Q.手で食べてみてどうでしたか？

- ・難しかった
- ・食べづらかった
- ・手が汚れるのが嫌
- ・最初は嫌だったけど慣れた
- ・食べやすかった



Q.世界のどんなことに興味を持っていますか？

(事前)

遊び・食べ物・服・家・音楽・生活習慣 など...

(事後)

- ・上記の回答
- ・貧しい国に住む人の生活/5人
- ・世界の人口/4人
- ・世界の食べ物/5人
- ・世界の言葉(あいさつ等)/6人



感想

カレー作りでは、数人の児童はにおいや味に抵抗感があった様子だったが、食べ慣れてくると気にならなくなったようで、食べ残しもほぼなかった。このように、体験によって得た様々な発見や葛藤を通して、それを受け入れることができた児童たちは、『異文化理解』を深めることができたといえるのではないだろうか。

アンケートでは言語の違いや貧しい国に住む人びとの生活が知りたいといったような意見を聞くことができたが、児童の世界に対する興味の幅が広がったと感じ、私たちが伝えなかったことに反応を示してくれたようでうれしく思った。しかし、文字が読めないことの疑似体験ゲームでは、「スリルがあって面白かった」という感想があり、ただのゲームとしてしか受け止めていなかった児童がいることもわかった。しかし全体を通して、この活動のねらいであった、国際理解や異文化への興味を持ってもらうきっかけづくりができたのではないかと感じている。

今後の予定

スケジュールの関係でカレー作りを省くことになったが、2月に、残りの5年生2クラスの授業を行う予定だ。

児童に現実問題として受け止めてもらえるような伝え方の工夫をし、授業のスムーズな進行と、臨機応変な対応を心がけてよりより授業作りを目指したい。

YPU ドリームアドベンチャープロジェクト2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名:YPU WORLD BAZAR

配 分 額:50,000

代 表 者:国際文化学部 国際文化学科 1年 村上 遥香

(単位:円)

区 分	支 出 額
コピー代	920
教材費	949
試作費	16,190
合 計	18,059
配 分 額	50,000
残 金	31,941

YPU WORLD BAZAR



国際文化学部国際文化学科1年
尾崎真友子 倉本真夢美
玉川佑香 藤井里江
村上遥香 吉武浩子

ねらいと変更点

ねらい: 子供たちに異文化や国際問題に興味を持ってもらうきっかけを作る

場所: 大歳小学校

対象者: 大歳小学校5年1組の生徒37人

日程

2008年12月2日

インドカレー作り(3, 4校時)

世界がもし37人の村だったらゲーム(5校時)

- * フェアトレードの内容は難しいと判断したため中止
- * 留学生はスケジュールの都合で、講師は予算の都合で不参加
- * サンデー山口と連絡が取れなくなったため断念



実際に運営したプログラム

○場所 大歳小学校

○対象者 大歳小学校5年1組の生徒37人

○日程

2008年12月2日

3・4校時 インドカレー作り

5校時 世界がもし37人の村だったらゲーム



カレー作り

目的: 異文化に触れてもらう(異文化理解の促進)

- * スパイスでルーを作る
- * インディカ米
- * 手で食べる



3回の試作



1回目



2回目



3回目



参加型ワークショップ

○目的:ゲームを通して世界の状況を知ってもらう(国際理解)

○内容

- *世界の人口比・男女比
- *世界の言語
- *大陸別人口分布
- *識字率
- *富の分布

大陸ごとに分かれてみよう!



文字が読めないということ



世界の富の分布



事前・事後アンケート

Q.手で食べてみてどうでしたか?

- ・難しかった
- ・食べづらかった
- ・手が汚れるのが嫌
- ・最初は嫌だったけど慣れた
- ・食べやすかった



Q,100人村のゲームはどうでしたか？
(複数回答可)

- ・楽しかった/32人
- ・よくわかった/25人
- ・まあまあわかった/2人
- ・怖かった/3人



Q,世界のどんなことに興味を持っていますか？

(事前)

遊び・食べ物・服・家・音楽・生活習慣 など…

(事後)

- ・上記の回答
- ・貧しい国に住む人の生活/5人
- ・世界の人口/4人
- ・世界の食べ物/5人
- ・世界の言葉(あいさつ等)/6人



まとめ

* カレー作りとワークショップを通して、児童の国際理解を深めることができた。

* しかし、授業の内容を、ゲームとしてしか受け止めていなかった児童がいることもわかった。

* 私たちが教えられたこと

- ・知識不足
- ・世界の現状への“理解”不足



今後の予定

2月下旬に大歳小学校

5年2組、3組に授業

* ワークショップのみ

意見

購入システムの改善



収支報告

○ 配分額: 50,000円

○ 内訳

印刷費: 920円

教材費: 949円

試作費: 16,169円

合計: 18,059円

残金: 31,941円

県大発 自然体感プロジェクト および エコアクション21学生委員会活動

代表者：原田 佳織	(エコアクション 21 学生委員会 代表	社会福祉学科 3 年)
構成員：高橋 由佳	(エコアクション 21 学生委員会 副代表	文化創造学科 2 年)
田村 紗穂理	(エコアクション 21 学生委員会 副代表	文化創造学科 2 年)
山田 雄太	(エコアクション 21 学生委員会 会計	国際文化学科 2 年)
渡辺 夏子	(エコアクション 21 学生委員会 書記	国際文化学科 2 年)

○目的

- 本学の環境に対する取り組みを地域へ広く伝える。
- 地域の方々を対象に環境学習会を行うことにより、地域と学生とのつながりをつくる。
- 広報紙を作成し、エコアクション 21 学生委員会活動を広く伝える。

○活動内容（一覧）

- ゴミステーション運営
- 野田学園高等学校主催「エコ学習会」 講師
- 環境「みらい」サミット／学生交流会
- 野田学園高等学校文化祭「かんきょうフォーラム」参加
- 県立大学フェスタ 2008 出展
- エコプロダクツ 2008 出展
- 体験型環境学習会 企画運営
- 「平成 20 年度エコアクション 21 学生委員会活動報告書」作成

○今後の展開

現在「平成 20 年度エコアクション 21 学生委員会活動報告書」を作成中で、今年度中に発行予定である。また学内アンケートも実施しており、学生の意識調査をしている。その結果を基に学内向けの活動をしていこうと考えている。

○感想

広い視野を持って活動することが出来た。
また、計画性を持って活動する事やメンバー間での意思疎通の大切さなど、様々な事を学ぶことが出来た。

活動を通して、メンバー全員のスキルアップにもつながった。今後に生きるプロジェクトであったと思う。

6月の水無月祭と11月の華月祭でゴミステーションを運営した。学園祭でもゴミの分別と再資源化を徹底することを目的として行った。

ごみステーション

水無月祭、華月祭で、学生委員会を主体として運営。ごみ分別と再資源化の徹底を目的として行う。模擬店出店団体にも協力を要請し、作業を一緒に行った。



7月12日

野田学園高等学校主催「エコ学習会」



野田学園高等学校の生徒と、環境について話し合った。

7月26日に、本学にて『環境「みらい」サミット』が開催された。このサミットで学生委員会は、準備段階で先生方と一緒に企画を練り、当日は大学生と高校生による討論会の進行の手伝いをした。

討論会後には、参加大学の活動報告と情報交換を兼ねた交流会を行った。この時の司会進行は、エコアクション21学生委員が務めた。

野田学園高等学校の生徒に対する「環境『みらい』サミット」の事前学習として、90分間の授業を行った。

始めに環境共生型スクールである野田学園高等学校の見学を行った。引き続き「think globally, act locally」をテーマにして環境について話し合い、今、自分に何ができるのかをみんなで考えた。

7月26日

環境「みらい」サミット



安井至先生による講義の様様

大学生と、高校生の代表がパネラーとして討論会に参加会場からも様々な意見が挙がった



討論会後の交流会と、各大学の活動報告の様様

9月5日 野田学園文化祭

「かんきょうフォーラム」に参加



「山口県立大学 環境への取り組み」を發表中



パネラーの1人として、参加者と共に討論

9月に開催された野田学園高等学校文化祭の「かんきょうフォーラム」に、エコアクション21学生委員も参加した。このフォーラムは、7月に野田学園高等学校で行った「エコ学習会」に参加した生徒がスタッフとなって運営された。フォーラム前半で、学生委員が「山口県立大学 環境への取り組み」をテーマに15分間のプレゼンテーションを行い、後半では、野田学園中学・高校の生徒、教員、エコアクション21学生委員をパネラーとしてパネルディスカッションが行われた。

9月に開催された県立大学フェスタ2008に参加した。学生委員会の活動を展示にて紹介するとともに、独自のアンケート調査も実施した。回答からは、エコアクションの知名度が低いことが明らかになったと同時に、気軽にできるエコ活動を知りたい、普段の生活で役に立つ情報が欲しい、子どもたちに環境について教えてもらえるようなイベントがあればいいといった意見を頂いた。

県立大学フェスタ2008

日時：平成20年9月20日(土)
会場：ニューメディアプラザ山口

・展示内容
活動報告
(エコ新聞・緑のカーテン成長記・ごみ分別ゲーム)
アンケート調査

ごみ分別ゲーム
緑のカーテン(スライドショー)
が好評でした。



12月11日～13日

エコプロダクツ2008

エコプロダクツ2008は東京で行われる環境展示会。
数多くの大企業・大学が参加した。



12月11日から13日にかけて東京で「エコプロダクツ2008」という環境展示会が開催された。これは、日本の数多くの企業や団体が東京ビッグサイトに集まり、自らの環境活動を報告する展示会である。

山口県立大学も出展し、本学の環境に対する取り組みを紹介した。学生委員会では緑のカーテンに関する資料を作り、本学の取り組みを紹介すると共に緑のカーテンの効果についても紹介した。

メインイベント

県大発 自然体感プロジェクト

ここからは、このプロジェクトのメインとなった、「県大発 自然体感プロジェクト」について報告する。

【当日の概要】

- ・日時 2008年12月27日(土)
- ・場所 国立山口徳地青少年自然の家
- ・対象 宮野小学校3年生から6年生
- ・目的 「自然と触れ合うことは楽しい」と思えるような機会を提供する。
- ・イベント運営スタッフ
EA21学生委員6名、県立大学教員2名
山口県環境学習指導者バンク環境パートナー2名
→中村佳津子さん、神保達也さん
学内公募スタッフ
→社会福祉学科3年生:十時由佳さん
研修生:原田麻美子さん

イベントの概要は、左記の通り。外部の一般参加者とともに自然の多い場所へ出向き、自然と触れ合うことを中心としたイベントを企画した。

イベント準備にあたり、山口県環境学習指導者バンクに登録されている環境パートナーの2名、中村佳津子さんと神保達也さんの指導を頂いた。また、学内からイベント当日の運営スタッフも募集した。

当日参加してくださったのは、社会福祉学部3年の十時由佳さんと、研修で社会福祉学部に来られている原田麻美子さんの2名。

環境学習プログラム考案

- ・イベント
- ・場所
- ・対象者
- ・実行日

経験不足から外部の意見を取り入れる
→環境パートナーの協力を仰ぐ

イベント実施にあたり、私たちは環境学習プログラム考案した。環境パートナーの2名に協力を頂きながら、オリジナルのプログラムを考えた。

イベント実施時期が冬であったことも考慮しながら、当日の内容や実施場所、対象者についても細かく話し合った。

その結果、イベント実施日時は12月27日

土曜日、場所は国立山口徳地青少年自然の家、対象者は宮野小学校 3 年生から 6 年生、プログラムは「アイスブレイク・オリエンテーリング・工作・焼板」となった。

事前準備

- ・「国立山口徳地青少年自然の家」への下見
→当日行う場所・使うものの確認

イベント準備

- ・宮野小学校との交渉
- ・環境パートナーとの交渉・話し合い
- ・イベント運営スタッフの募集ポスター作成
- ・当日のタイムテーブル作成
- ・イベントで使う物の作成
- ・申込用紙やしおり等の配布物作成
- ・保護者への事前連絡(体調確認など)
- ・バスの手配
- ・保険加入の手続き

当日まで、宮野小学校との交渉や参加児童保護者への事前連絡、配布物やイベントで使用する物を作るなど、左記に挙げてあるような準備を行った。

イベント準備に取り掛かってから、学生委員会では 2 時間から 3 時間の話し合いを毎週 2 回行った。

それでも時間が足りず、もっとメンバー全員が集まる時間を設けたかったが、それぞれの都合が合わなかったため各自で準備を進めていった。



当日は 9 名の小学生と共に楽しいひと時を過ごすことができた。天候にも恵まれ冬の自然を満喫した。

イベント終盤で行った振り返りで、参加者からは「みんなに協力してもらっていろいろな事ができた。ありがとう」「今日作ったものを、家族の人にプレゼントしたい!」「ぶち楽しかった〜! 」といった意見が出た。イベント運営スタッフとして参加して下さった 2 名も、とても楽しかったと話していた。

私たち学生委員会だけの力ではなく、多くの人に支えられて作り上げることでできたイベントだった。

成果

- ・外部との連携や地域との関わりが増えた
- ・広い視野で活動することができた
- ・学生委員の経験値が上がった

今年度は、野田学園高等学校や宮野小学校、そして他大学など、外部と交流する機会が多かった。その中で、今後につながるような関係も築くことができた。また、広い視野で活動することもできた。

常に新しいことに挑戦していく中で、分からないこともたくさんあったが、周りからのサポートもあって活動を進めることができた。また活動を通して、私たち学生委員の経験も増えた。

課題

- 人員不足
- 認知度を高める
- 早めに計画をする
- 情報伝達をスムーズにする
- 社会資源(人や情報など)を活用する

エコアクション 21 学生委員会の課題として、人員不足・活動に対する認知度の低さが挙げられる。認知度を高めることがメンバー確保にもつながると思うので、まずは学生に、エコアクション 21 学生委員会の活動内容を知ってもらいたいと思っている。

イベントの企画段階でいつも時間が足りず準備不足なところもあったので、今後は計画性を持って活動していこうと考えている。また、私たちだけでは知識・経験不足なので、専門家の方々にアドバイスをもらいながら計画を立てていきたい。

今後の予定・展望

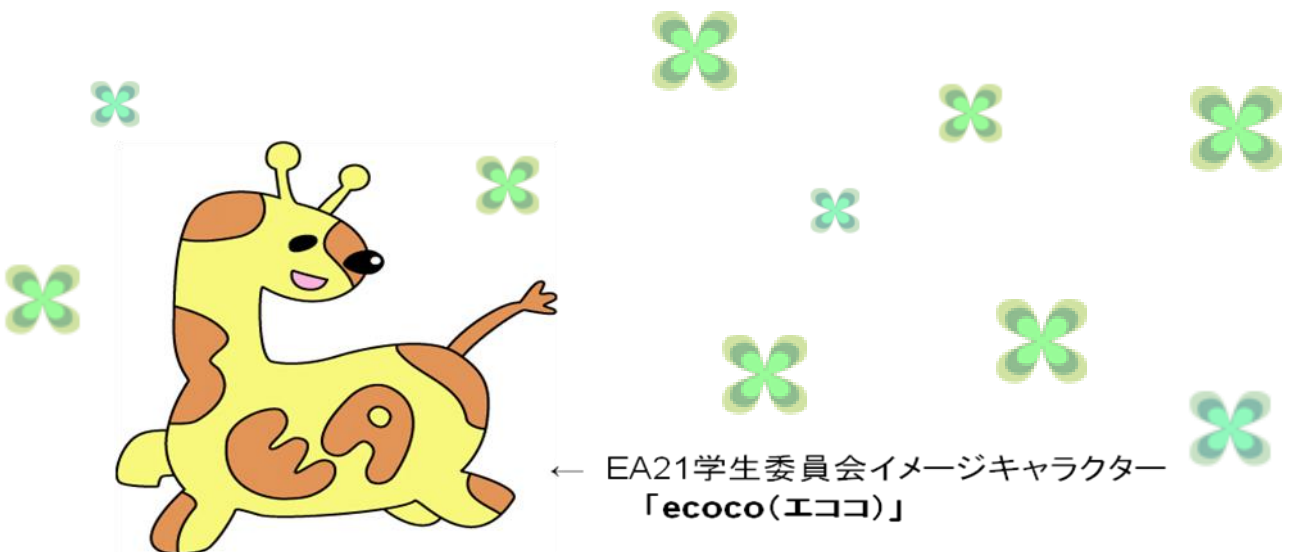
- ・「平成20年度エコアクション21学生委員会活動報告書」を作成中。
- ・学内アンケートを実施
→学内環境活動などに対する学生の意識調査をする。
- ・学内向けの活動を行う。

現在、「平成 20 年度エコアクション 21 学生委員会活動報告書」を作成中である。また、学内アンケートも実施しており、その結果をもとに学内向けの活動をしていきたいと考えている。

学内向けの活動としては、ゴミ箱の改善や環境関連イベントの実施などのような案が出ている。様々な方法を取り入れながら学内改革を行い、大学構成員すべての環境意識の向上を目指したいと考えている。

多くの方のご協力を得て、私たちはプロジェクトを進めることができました。

ご協力くださった方々に心よりお礼申し上げます。



← EA21学生委員会イメージキャラクター「ecoco(エココ)」

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名: 県大発 自然体感プロジェクトおよびエコアクション 21 学生委員会活動

配 分 額: 300, 000円

代 表 者: エコアクション 21 学生委員会 代表 社会福祉学科 3 年 原田 佳織

(単位:円)

区 分	支 出 額
イベント運営費	63, 525
ゴミステーション運営費	8, 613
広報誌作成費	115, 500
EA21学生委員会活動費	112, 000
合 計	299, 638
配分額	300, 000
残 金	362

B部門 (B-2)

県大発 自然体感プロジェクト
および
エコアクション21学生委員会活動

エコアクション21学生委員会

原田佳織・高橋由佳・田村紗穂理
渡辺夏子・山田雄太

目的

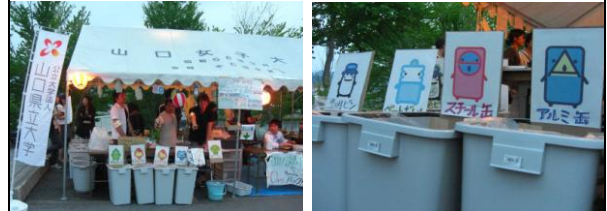
- 本学の環境に対する取り組みを地域へ広く伝える。
- 地域の方々を対象に環境学習会を行うことにより、地域と学生とのつながりをつくる。
- 広報紙を作成し、エコアクション21学生委員会活動を広く伝える。
- 学内において、学生委員会の活動を伝える。

活動 (一覧)

- ゴミステーション運営
- 野田学園高等学校主催「エコ学習会」講師
- 環境「みらい」サミット／学生交流会
- 野田学園文化祭「かんきょうフォーラム」参加
- 県立大学フェスタ2008 出展
- エコプロダクツ2008 出展
- 体験型環境学習会 企画運営

ゴミステーション

水無月祭、華月祭で、学生委員会を主体として運営。ごみ分別と再資源化の徹底を目的として行う。模擬店出店団体にも協力を要請し、作業を一緒に行った。



7月12日

野田学園高等学校主催「エコ学習会」



野田学園高等学校の生徒と、環境について話し合った。

7月26日

環境「みらい」サミット



←安井至先生による講義の様様

大学生と、高校生の代表がパネラーとして討論会に参加
|会場からも様々な意見が挙がった



討論会後の交流会と、各大学の活動報告の様様



9月5日 野田学園文化祭

「かんきょうフォーラム」に参加



←「山口県立大学 環境への取り組み」を発表中



パネラーの1人として、参加者と共に討論→

県立大学フェスタ2008

日時：平成20年9月20日(土)
会場：ニューメディアプラザ山口

・展示内容
活動報告
(エコ新聞・緑のカーテン成長記・ごみ分別ゲーム)
アンケート調査

ごみ分別ゲーム
緑のカーテン(スライドショー)
が好評でした。



12月11日～13日

エコプロダクツ2008

エコプロダクツ2008は東京で行われる環境展示会。
数多くの大企業・大学が参加した。



メインイベント

県大発 自然体感プロジェクト

【当日の概要】

- ・日時 2008年12月27日(土)
- ・場所 国立山口徳地青少年自然の家
- ・対象 宮野小学校3年生から6年生
- ・目的 「自然と触れ合うことは楽しい」と思えるような機会を提供する。
- ・イベント運営スタッフ
EA21学生委員5名、県立大学教員2名
山口県環境学習指導者バンク環境パートナー2名
→中村佳津子さん、神保達也さん
学内公募スタッフ
→社会福祉学科3年生：十時由佳さん
研修生：原田麻美子さん

環境学習プログラム考案

- ・イベント
- ・場所
- ・対象者
- ・実行日

経験不足から外部の意見を取り入れる
→環境パートナーの協力を仰ぐ

事前準備

- ・「国立山口徳地青少年自然の家」への下見
→当日行う場所・使うものの確認

イベント準備

- ・宮野小学校との交渉
- ・環境パートナーとの交渉・話し合い
- ・イベント運営スタッフの募集ポスター作成
- ・当日のタイムテーブル作成
- ・イベントで使う物の作成
- ・申込用紙やしおり等の配布物作成
- ・保護者への事前連絡(体調確認など)
- ・バスの手配
- ・保険加入の手続き



成果

- 外部との連携や地域との関わりが増えた
- 広い視野で活動することができた
- 学生委員の経験値が上がった

課題

- 人員不足
- 認知度を高める
- 早めに計画をする
- 情報伝達をスムーズにする
- 社会資源(人や情報など)を活用する

今後の予定・展望

- 「平成20年度エコアクション21学生委員会活動報告書」を作成中。
- 学内アンケートを実施
→学内環境活動などに対する学生の意識調査をする。
- 学内向けの活動を行う。

ご清聴ありがとうございました。



← EA21学生委員会イメージキャラクター
「ecoco(エココ)」

「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊

代表者：盆子原三晴（国際文化学部・国際文化学科・3年）

構成員：川田明奈、塩見まゆ、福田真理、松本早織、山口優（国際文化学部・3年）

高橋佑二郎（国際文化学部・4年）、姜ヒョンウク（慶南大学からの交換留学生）

新宅康子（国際文化学部・3年）、

沼京子、松野里美、山田雄太、李由紀（国際文化学部2年）

目的

山口県立大学が位置する山口県における観光の実態を踏まえ、韓国人の関釜フェリー利用者に対して、アンケートを実施し、渡航目的を明らかにする。その結果を踏まえ、山口県における観光産業の見直しや、山口－釜山を結ぶ2地点連携型観光産業の新しいあり方の実現へ向けた研究を行う。これにより、山口県への観光誘致を行い、地域活性化を図り、本校が目指す「地域に根ざす大学」としての地域貢献を果たす。

活動内容

- | | |
|-------|-------------------------|
| 8月11日 | 山口県庁観光交流課訪問 |
| 8月26日 | 福岡アジア都市研究所訪問 |
| 10月上旬 | アンケート作成・関釜フェリー株式会社訪問 |
| 10月下旬 | 調査開始 |
| 12月下旬 | 調査終了（計21回・892部）・アンケート集計 |

調査場所：関釜フェリー乗り場

対象者：関釜フェリー利用者



成果

- ・目標だった1000部には届かなかったが、計21回の調査で892部回収することができた。
- ・アンケート調査の結果をもとに、山口旅マップを作成し、山口県の観光産業の活性化に一役買える可能性がある。
- ・韓国人旅行者の渡航目的が明らかになった結果、山口県は通過点にすぎないことが実証された。

今後の予定

- 2月下旬 ハングル記述欄の読み取り完成
- 3月上旬 地域実習Ⅰ・Ⅱ履修者による山口旅マップの作成
- 3月下旬 報告書完成（福岡アジア都市研究所、山口県庁などに配布）

意見・感想

結果よりも、結果に向かうまでの過程で、試行錯誤を繰り返し、改善点について話し合ったことで、調査隊の結束が強まった。毎回調査に行くごとにさまざまな人と接し、忘れられない出会いも多々あった。笑顔で「アンケート、プタケヨー（アンケート、お願いします。）」と言うと、言語が通じなくとも、気持ちは伝わると感じた。



YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008

収 支 報 告 書

プロジェクト名:「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊

配 分 額:300,000円

代 表 者:国際文化学部 国際文化学科 3年 盆子原 三晴

(単位:円)

区 分	支 出 額
用紙代	2,286
交通費	87,000
文具代	62,922
印刷代	20,500
報告書製本代	93,240
郵送料	15,600
合 計	281,548
配分額	300,000
残 金	18,452



- ◆ **代表者**
盆子原三晴・国際文化学部・国際文化学科・3年
- ◆ **構成員**
川田明奈、塩見まゆ、福田真理、
松本早織、山口優(国際文化学部・3年)
高橋佑二郎(国際文化学部・4年)、
姜炫旭(慶南大からの交換留学生)
- ◆ **地域実習 I・II履修者**(担当: 浅羽祐樹講師)
新宅康子(国際文化学部・3年)、沼京子、
松野里美、山田雄太、李由紀(国際文化学部2年)

調査目的

- ◆ 韓国人の関釜フェリー利用者に対し、アンケートを実施し、渡航目的を明らかにする。
- ◆ その結果をもとに、山口県における観光産業の見直しに繋げる。

活動内容

- ◆ 8月11日 山口県庁観光交流課訪問
- ◆ 8月26日 福岡アジア都市研究所訪問
- ◆ 10月上旬 アンケート作成
関釜フェリー株式会社訪問
- ◆ 10月下旬 調査開始
- ◆ 12月下旬 調査終了(計21回・892部)
アンケート集計

実施内容

- ◆ 調査を重ね、アンケートを改訂
- ◆ バインダーを投入
- ◆ ハングルで書いたポスターでPR
- ◆ 県庁からお借りした旗で存在アピール
- ◆ 県立大学のはっぴを着用しアピール

粗品について

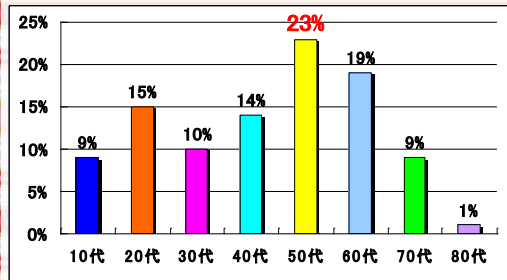
- ◆ 最初の粗品はペグシルとポストカード
- ◆ 粗品にカイロを追加(大好評!!)
- ◆ 限定50個のストラップを粗品に追加



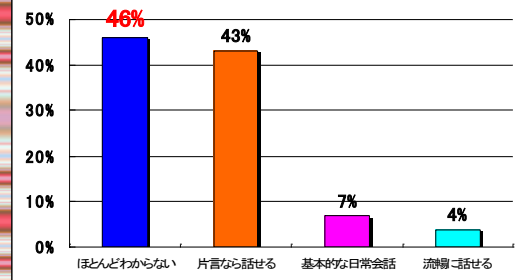
性別

- ◆ 男性46%
- ◆ 女性54%

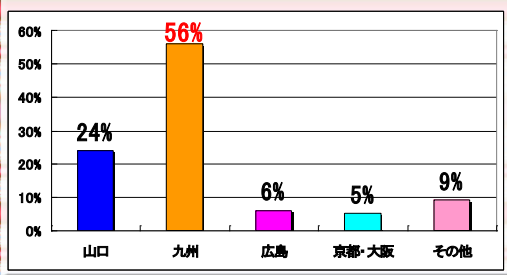
年齢



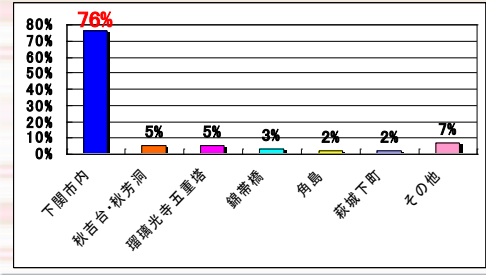
日本語



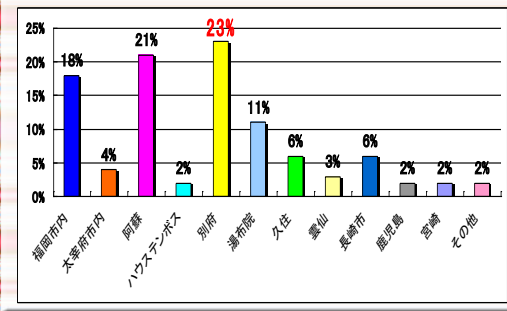
旅行の訪問地



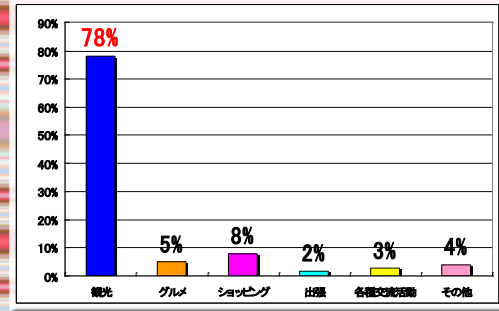
山口の訪問地



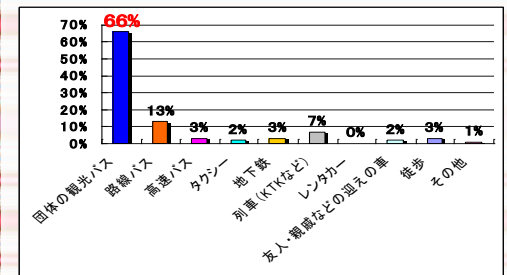
九州の訪問地



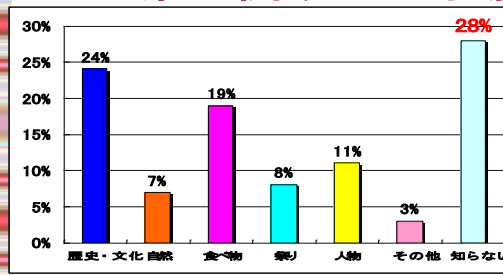
旅行目的



下関港～訪問地までの交通手段



山口県に関する知名度



成果

- ◆ 計21回調査実施、892部回収
- ◆ アンケート調査の結果をもとに、山口旅マップを作成し、山口県の観光産業の活性化に役買える可能性がある。
- ◆ 韓国人旅行者の渡航目的が明らかになった結果、山口県は通過点にすぎないことが実証された。

今後の予定

- ◆ 2月下旬ハングル記述欄の読み取り完了
- ◆ 3月上旬 地域実習I・II履修者による山口旅マップの作成
報告書完成
山口県庁、
在広島大韓民国総領事館、
福岡アジア都市研究所に配布

意見・感想

- ◆ グループ活動の中では、受身ではなく、自発的に行動することが大切だと気付いた。
- ◆ 情報共有の重要性、協調性、コミュニケーション能力を学ぶことができた。
- ◆ 結果よりも、結果に向かうまでの過程が重要だと気付いた。
- ◆ 一人ひとりが、責任を持って作業をやり遂げることの大切さなどを学んだ。



ご清聴
ありがとうございました

YPUドリームアドベンチャープロジェクト選考内規

(名称)

第1条 本事業の名称は、YPUドリームアドベンチャープロジェクトとする。

(目的)

第2条 学生・院生が日頃から思っている、大学生活をさらに楽しく、豊かにするための学生独自の企画を広く募集し、大学の活性化を図る。

(応募資格者)

第3条 本事業に応募できるのは、本学に在籍している学生及び院生とする。

2 応募者は、個人・グループのいずれでも可とする。

(応募書類)

第4条 応募者は、プロジェクト企画書(別紙様式)を提出しなければならない。

2 翌年の1月末日までには成果が出せる内容でなければならない。

(応募先)

第5条 作成したプロジェクト企画書は、学生支援部学生活動支援センターに提出しなければならない。

(応募期間)

第6条 別途定められた期間とする。

(選考委員)

第7条 期間内に提出されたプロジェクト企画書は、公正かつ厳正に選考されなければならない。

2 学長、副学長、副理事長、学生支援部長、学生委員会代表、外部委員、学生代表から成る選考委員会で選考する。

(採用決定)

第8条 採用決定は、原則として6月上旬を目途とする。

(助成金及び採択件数)

第9条 採択された企画に対しては、内容に応じて助成金を給付する。

2 高額な助成金給付企画については、1次選考後に簡単なヒアリングを行うこととする。

(成果報告会)

第10条 助成金を給付された企画については、翌年1月に開催する成果報告会で、その成果を発表しなければならない。

(その他)

第11条 この規定に定めるもののほか、YPUドリームアドベンチャープロジェクトの運営について必要な事項は、所長が定める。

附則

この規定は、平成20年5月28日から施行する。

平成 20 年度 プロジェクト企画書

プロジェクト名	希望カテゴリー (丸をつける) A・B
応募者氏名	代表者 (学部・学科・学年) : 代表者連絡先 (携帯電話等) :
	プロジェクト参加者 (学部・学科・学年) : 多数の場合は別紙へ
必要予算	総費用 :
	使用品目内訳 :
プロジェクトのねらい	
プロジェクトの成果	
プロジェクトの進行計画	

YPUドリームアドベンチャープロジェクト 2008（学生用）

長期間の取組みや活動成果報告会等、お疲れ様でした。

皆さんのこの取組みが、本学を元気づける推進力となりました。大学として、次年度もこの取組みを継続することとしています。

そこで、次年度に向けての取組をより有意義なものにさせるために、以下の項目への回答をお願いします。

1)プロジェクトの成果を全学に発信し、さらに地域との交流に広がりをもたらすためには、どのような活用方法が効果的だと思いますか。

- ・成果報告会以外にも発表の内容を公開する。
- ・文化祭等での呼びかけで全学への発信を。
- ・YPUプロジェクト専用の学生が使える掲示板があったら、学生にとっても地域にとっても便利ではないかと思う。
- ・地域の回覧板に地域向けに作り直した全団体の活動報告書をいれさせていただく。(2)
- ・ポスターやプロジェクト内容をまとめた冊子などを学内に設置したり、駅や公民館に置かせてもらったりする。
- ・学生への広報誌を作り、配布する。
- ・マスメディアの活用や呼びかけなど、とにかくみなさんに知ってもらう工夫が必要(2)
- ・まだ認知度が低いので、地域を通じた活動を増やし、活動の幅を広めていかなければならないと思う。
- ・もっと認知度を高めると同時に、授業等に組み込めるようなら積極的に組み込み、認知度を上げたり、人員不足を補ったりすることをしていくといいのではないかと思う。
- ・学生自身が主体的に、そして継続的に活動していかなければ。
- ・大小にかかわらず、地域行事への県大生の意欲的な参加。

2)今回の取組を通して、どのようなことを学びましたか。また、感想があれば自由にお書きください。

- ・計画の大切さと自主的に動かなければ何事も進まないことを学んだ。
- ・今回の取組を通して、自分自身がもっと成長していきたいと思った。そして、もっと子どもたちのために活動したいと思った。
- ・情報提供を行う際、正確に伝える責任感を学んだ。
- ・地域との交流が楽しかった。見ている視点が違うんだなと思った。
- ・地域とのつながりと、今まで見ることのなかった地域の新しい面を見つけることができた。
- ・地域との関わりって大切！
- ・地域の中への呼びかけはにわかにはできない。地域ネットワークを有効に利用し、早い段階で知らせて、地域の方の予定などへの配慮が必要であった。
- ・挑戦することの大切さ、つながりの大切さを学んだ。(2)
- ・メンバー間の意思疎通の大切さを学んだ。
- ・一度築いたつながりを、今後どうつなげていくかが課題
- ・一般の企業との関わりをもつこと。
- ・自分で勉強するだけでなく、人と関わるのが一番勉強になること。
- ・人員不足が問題なので、次はもっと人を集められるようにしたい。
- ・自分たちのプロジェクトを理解してもらい、参加者を集めることの難しさ

- ・何かを企画して他の人(学生)に参加してもらうことがいかに難しいかを学んだ。
- ・人を集めることの大変さ。仲間との協調性。外部の方との連携法などを学び、とても有意義な時間を過ごすことができた。
- ・企画力と運営力が身に付いた。
- ・企画力、事務的な作業をどのように効率よくこなすかを考える経験となった。
- ・自ら、企画することのむずかしさ
- ・木や森などの自然についてと、山で働く人について学ぶことができた。
- ・分かりやすいプレゼンテーションを行うために、もっと写真を活用していただきたいと感じた。

3)プロジェクトを実施する過程で、困ったこと・苦労したことがありましたか。

- ・ あった
- ・ なかった

「あった」と回答した人に尋ねます。それはどんな内容で、解決できましたか。

(1)予算関係

- ・物品の購入方法が不便だった。(4)
- ・用途が限られていたため、十分に活用することができなかった。(3)
- ・商品購入の際、学校側と店側の板挟みになり、時間をとられたいへん苦労した
- ・食糧費が出ると思っただけで応募したが、その予算が出なかったこと。
- ・立て替えもできないのが、不便だった。
- ・栄養学科でプロジェクトを実施したのだが、食材費が出してもらえないというのが、とても困ったことだった。

(2)人員確保

- ・地域のネットワークを利用することで、解決できた。
- ・宣伝方法の改善で解決できた。
- ・様々な方法を使い、早くから募集をかける。

(3)その他

- ・情報伝達がうまくいかなかった。
- ・学年等が違うことでなかなか連絡がつかず、進行具合をすぐには知ることができなかった。

4)アドバイスをもらえる人はいましたか。

- ・いた
- ・いなかった

「いた」と回答した人に尋ねます。何かアドバイスをもらいましたか。

- ・無理はしないで、今できることをするというアドバイス。
- ・対象者の気持ちになって考えるということ。
- ・楽しむことが大切ということ。
- ・プロジェクトの目的をどういう形で行うのがよいか。
- ・高齢者を対象としたため、一緒に活動していく上での注意点
- ・地域の方に、活動を続けていくなら、こうした点に気をつけたほうがいいと
- ・外部との交渉がスムーズにできるよう、助言をいただいた。
- ・プロジェクトメンバーの集め方、活動の内容
- ・プロジェクトを進める上での注意点など、経験者からのアドバイスを。
- ・プロジェクトを進める際、多くの人からアドバイスや注意点を。
- ・授業内容について、国際交流協会の方からのアドバイスを。
- ・料理教室の流れや準備について、アドバイスをいただいた。
- ・学生支援グループのスタッフの方

5) 今年を取組をもとに、本年度以降も継続して活動を継続しますか。

(1)継続の方向で

- ・今年はいろいろな取組を始めたところなので、継続していきたい。
- ・ぜひ、継続したい。(4)
- ・可能な限り、続けたいと思う。(3)
- ・また開催してほしいとの声をいただいたので、できる限りこれからも行いたい
- ・今回は地域の人たちと交流を広めることはできたが、県大生に広めることができなかった
ので、来年度は学生を対象に行っていきたい。
- ・自分たちの計画や購入システムなど、スムーズに進められれば、ぜひ活動を継続して行
いたい。
- ・金銭的な問題点が改善されれば、継続して行いたい。
- ・できれば続けていきたいが、リーダーが卒業するので、どうしたらいいか不安
- ・継続したいと思うが、応募するかどうかは何とも言えない。

(2)継続しない

- ・継続しない。

6) 成果報告会の在り方について、ご意見があればお願いします。

- ・他の企画が何をしているのか、どんな成果が出たのかを知ることができて、とてもいい。ま
た、この場で宣伝や人集めのノウハウを教え合うといいと思う。
- ・いい報告会でした。
- ・もっとアピールして多くの人に参加してほしい。
- ・会場をもう少し広い所で行ってはどうか。後の席は、ちょっと見辛かった。
- ・桜翔館は明るく入りやすいので良い。
- ・時間が長い。
- ・もう少し詳しく、報告会で伝えるべきことを提示してほしかった。

YPUドリームアドベンチャープロジェクト2008（選考委員コメント）

お弁当の日（大学生の食意識向上を目指した交流の場の提供）	大学生の食意識向上と地域交流を目的とし、テーマに沿った料理を各自持ち寄る。学部学科、教員、学生を超えた情報交換や、食について話し合う時間の提供と、「おいしく・楽しく・学べる」場の提案。
<ul style="list-style-type: none"> ・継続することが大切。 ・「手づくり」の意義を更に広める方法の開発に期待します。 ・多くの会を開催し、充実していたようだ。「おいしく・楽しく・学べる」のとおりの内容でした。 ・チームワークのよさ。継続できていることは楽しい活動なのだろう。 ・「大学生にアレンジ」したのは何故？料理を作る楽しさや感謝の気持ちを育てることができた。 	

心も体も健康になる 『ヘルサー』	地域の高齢者を対象とし、学生との交流会を通じて身体・精神・社会的に両者が健康になること、また学生と地域とのコミュニケーションの促進を目的とする。測定やアンケート実施により、プロジェクトの成果を問う。
<ul style="list-style-type: none"> ・継続することが大切。まず、ニーズを的確に把握する方法を考えてみては？内容は素晴らしいと思います。 ・これを機会に、交流がより深まる仕組みの検討を期待します。良い経験になったことと思います。 ・地域の高齢者との交流は大事です。目的が達成されたと思います。 ・健康アプローチに対しての地域ニーズは高く、複数の学科が集まり開催。企画する中での自主性・行動力が身についたと思う。 ・町内会の人に火をつけたことで、参加者が増え、新たな出会いができた。複数の学科の学生集団が評価される。人を集める難しさを認識。 	

宮野交流会 ～地域の方と料理教室～	地域の方と学生が交流できる場を、料理教室という形で企画し提供する。山口の料理と特産をテーマに、宮野地区の老人会を招いて学生との料理作りや会食が新たな交流の場として楽しめるものにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の方から得たデータをいかに蓄積していくかが大切だと思います。 ・郷土料理が生まれた背景など、単に作って交流するだけではなく、「郷土の文化」として理解すると更に意義深くなったでしょう。 ・料理を通じた交流や山口ならではの料理が楽しめたようです。2・3回開催してみたらいいと思われそうです。 ・1回開催しているが、地域へ還元できたものは何だったのか？ ・地域との交流を「食」という手段で実施したが、説明で終わったように思える。単なる料理教室か？？ 	

Y P U 「ゆめの森」づくり	地域と連携し、大学の自然環境の整備を図る。両者が協力しながらシイタケの栽培を行うことを通じた、学生への学習の場の提案、また自然公園として大学の森を地域に開放する。
<ul style="list-style-type: none"> ・森の整備という目標がはっきりしているの、今後とも継続してほしい。 ・学生プロジェクトとしての活動の範囲、制約を踏まえながら、今後の発展に期待します。 ・学生が体験できないことを体験でき、良い経験だったようだ。マロニエの会、しいたけ農協との交流が素晴らしいです。 ・作業を通して、いろいろ交流をもち、そのことが学生の学びになる。 ・森での作業は危険を伴うこともあり、貴重な体験学習ができた。 	

Y P U WORLD BAZAR	3回のイベントを通じて、小・中学生の異文化や国際問題への興味を引き出すことを目的とする。 地域と留学生・外国人が交流し、国際意識と相互理解、両者のつながりを深める。
<ul style="list-style-type: none"> ・何故、文化の違いが発生するかという視点を入れるともっと深みが出るのでは。 ・分かりやすい形で国際理解・交流を実現していると感じました。留学生等の参加があれば、なお分かりやすいものとなったでしょう。 ・子どもたちが異文化をわずかであるが、理解できたのでは。 ・ゲームを通じて国際問題をリアルに学習している。 ・対象を小中学生とし、彼らに夢を与えたようである。コメントが良く、異文化を体験する場を提供した。 	

県大発 自然体感プロジェクト及び県大発 自然体感プロジェクト及びエコアクション21 学生委員会活動	県内の一般公募者とともに環境について見直す、体験型環境教育イベントの実施を提案。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な試みの中で、今後の活躍を期待します。 ・参加した小学生の学習内容や変化についての検証があれば、なお良かったでしょう。 ・盛りたくさんの内容でした。対象が小学生、高校生、大学生であり、環境についての興味が深まったのでは。 ・学内でのエコアクション活動の広まりはどうか？硬い、真面目な印象が活動を妨げているのか？ ・EA21 の情報を知らないし、認知度が低い。今後、大学学生や教職員の意識をどう高めるか？ 	

「釜山からもおいでませ山口へ」調査隊	関釜フェリー利用者にアンケートを実施し、山口県の観光の実態を調査する。地域の活性化や、山口・福岡・釜山の3都市連携の観光産業を発展させる手がかりとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なデータが集積された、素晴らしいプレゼンテーションになりました。今後の活用が楽しみです。 ・大変興味深い結果が得られたと思います。県をはじめとする各関係機関に報告して下さることを期待します。 ・貴重な調査であったと思われます。結果から提言まで、内容は充実していました。 ・山口県の課題が明確になった。プロジェクトをバックから支えてくれた教員の力 ・アイデアが良い。日本文化を理解してもらうノウハウが判る。何故、山口県は通過県なのか？ 	

選考委員会名簿

学 長	江里 健輔
副学長	三島 正英
副理事長	伊嶋 正之
外部委員	城 菊子
学生支援部長	田中マキ子
学生委員会代表	井竿 富雄
学生支援グループリーダー	松浦 芳裕
学生代表	磯村 裕佳